

第60号

もとす
ものがたり

博多情緒
たっぷりに
お菓子の
ロマンを
伝えます

株式会社 明月堂

明月堂

博多もみじがたり



しま川靴
SHIMAYA



明月堂



博多ものかたり

冬のおすすめ



商品番号 2811

川端ぜんざい

3袋入 1,620円(税込)

※卵・乳・小麦等は使用しておりません。
※レトルトパック入り。 中詰は真空パック入り。



博多名物「川端ぜんざい」は戦前戦後を通じ、全国に名が知れるほど親しまれています。

日本一、甘いぜんざいと謳われる
川端ぜんざい
「せんざい」は川端の心。
小餅の入った甘いぜんざいは、
昔ながらの博多の街のよき時代を
思い出させてくれます。

詳しくは22ページをご覧ください。



博多の歴史・伝統・文化を担う街
上川端商店街
かみ かわ わたる ばたん しょうとう がい
博多と天神とつなぎ、博多の伝統文化を担う
商店街として歴史を積み重ねてきた「上川端商店
街」。商店街は戦前から存在していましたが、戦後
の復興と共に賑わいを増し、昭和、平成と時代が移
り変わっていく中で、そのあり方にも変化が生じて
きました。今回は、長い歴史を刻んできた「上川端
商店街」の歴史を紹介します。

時代と共に変化を遂げてきた

上川端商店街

「上川端商店街」は、博多川沿いに北西から南東に約400メートルの長さがあり、100店以上の店舗が軒を連ねています。一日の平均通行客は平日で約12,000人、休祭日で25,000人。時代と共に変化してきたお客様の要望に応えるため、各店舗の店主も工夫を凝らした店作りに努力しています。

上川端通



現在の上川端商店街。アーケードは3代目。(写真提供／上川端商店街振興組合)

時代の移り変わりとともに 変化を続けてきた歴史

「上川端商店街」は、戦前から賑わっていましたが、記録が残っていないため当時の様子はよく分かっていません。大戦中は空襲に遭い、大きな被害を受けた福岡市ですが、「上川端商店街」付近は、ほとんどその影響を受けませんでした。戦後、すぐに百軒ほどのパラック建ての店舗が建ち並び、早く復興を果たします。当時は、博多駅が現在の位置よりも「上川端商店街」寄りにあり、福岡市役所や福岡県庁（現在のアクロス福岡・天神中央公園付近）一九八一年・昭和五十六年に東区東公園地区へ移転）に向かう人の通り道となり、大いに賑わったそうです。

戦後から昭和五十年代までは、地元の人人が日用雑貨や食料品、衣料品を購入するための商店街でしたが、平成に入り、国体道路沿いに「キャナルシティ博多」（一九九六年・平成八年）



アーチ型の
2代目アーケード。
1985年(昭和60年)頃。



合掌造りの
初代アーケード。
1965年(昭和40年)頃。

(写真提供／上川端商店街振興組合)

博多えんがたり

▼明月堂は、日本一甘いと評された味にこだわり「川端せんざい」として商品化しました。



「川端せんざい」が供される川端せんざい広場。
営業日:金・土・日・祝・イベントが開催される日
営業時間:11:00~18:00

「博多座船乗り込み」。博多川を歌舞伎の一座、地元芸者衆、市長などが船に乗り込み、顔見せを行います。(写真提供/上川端商店街振興組合)



上川端商店街

〒812-0026 福岡県福岡市博多区上川端町

◀数十年前からは、少し甘さが抑えられた「川端せんざい」。



「上川端商店街」には百軒以上の店舗が軒を連ねていますが、時代の移り変わりとともにテナントとして入居する店舗も変わっています。そんな受け継がれる伝統の味「川端せんざい」

年間を通じて、様々な祭り・イベントを開催

「上川端商店街」は、博多どんたく、博多祇園山笠、せいもん払いなどの発祥の地として知られ、博多の歴史・伝統・文化を担う街であり、年間を通じて、多種多彩なイベントが繰り広げられています。



◀1939年(昭和14年)、「上川端商店街」に出店し、10年を経た頃の明月堂川端店。戦前の様子を伝える貴重な写真です。

竣工、明治通り沿いに「博多リバレーイン」や「博多座」(ともに)九十九年、平成十二年竣工が創業する頃になると、国内外から数多くの観光客が訪れ、その人たちが気軽に立ち寄れる飲食店が増えました。

な商店街の中でも、昔ながらの店構えで営業しているのが「川端せんざい」です。創業は大正初期で「日本、甘いせんざい」を食べさせる店として有名でした。強い甘みが評判となり、博多川端の名物として人気を博しましたが、一九八五年(昭和六十年)に看板を下ろすことになります。

しかし、その後、川端せんざいを懐かしむ声が高まり、地元商店街が主体となってアイデアを出し合い、商店営業する運びとなりました。閉店から九年後の一九九四年(平成六年)四月二十八日(川端せんざい開店記念日)のことです。大正時代から連續と受け継がれてきた「川端せんざい」は、今も、「上川端商店街」の中で伝統の味を伝え続けています。

上川端商店街 主な年間祭り・イベントスケジュール

初売り	干支にちなんだ商品や福袋が店頭に。新年恒例のイベントで、お正月気分を盛り上げます。
春の市	3月1日から20日まで開催され、期間中、商店街で貢い物された方には、「せんざい無料券」が配布されます。
博多どんたく	5月3・4日、趣向を凝らした五百以上のどんたく隊が華やかにパレードを行います。
博多座船乗り込み	5月29日、歌舞伎の一座、地元芸者衆、市長などが船に乗り込み、顔見せに博多川を下ります。
博多祇園山笠	7月1日から15日まで開催され、15日の追い山の日は、7つの流の昇き山が柳田入りをした後、八番山として上川端通りの柳田入りをします。
せいもん払い	11月15日から20日まで行われます。1879年(明治12年)、八尋利兵衛(やひろうへい)が発案した博多の商いの一大イベント。
クリスマスセール	12月1日から25日まで開催。全店舗でクリスマス・ムードを高めます。

ふくおか今昔物語

移りゆく福岡の昔と今
古来より国際交流の拠点として発展をして発展を遂げてきた博多。対外交易の玄関口として栄え、日本の歴史と文化形成に大きな役割を果たしてきました。

古来より国際交流の拠点として発展をして発展を遂げてきた博多。対外交易の玄関口として栄え、日本の歴史と文化形成に大きな役割を果たしてきました。



「福岡御城下絵図」作者不詳・1699年(元禄12年)作。
東西は、博多区を流れる石堂川(御笠川)から早良区藤崎まで、南北は現在の西公園から中央区谷までが描かれています。
(写真提供 福岡県立図書館)



日本初の禅寺として開山した聖福寺。

室町時代(十四世紀～十六世紀)は、堺と並び貿易都市として栄えますが、戦国時代には戦国大名による領地争奪の対象となり、博多の街は荒廃しました。

一一九五年(建久六年)、榮西が博多に日本初の禅寺である聖福寺を開山。喫茶の習慣を広め、饅頭や餡餃の製法を伝授。

古より貿易都市として発展
玄界灘を挟み、朝鮮半島や中国大陆を臨む福岡市は古来より外交を行って地理的条件に恵まれていました。志賀島(東区)で発見された金印は、一世紀頃すでに大陸との交流があったことを示しています。その後も交流は盛んに行われ、六六五年(天智四年)には、後に大宰府の迎賓館となる「鴻臚館」が建設されました。外国からの使節の接待をはじめ、貿易事務所としての役割も果たしていましたといわれています。

一一六一年(応保一年)には、平清盛により、日本初の人工港「袖の湊」が建設され、日宋貿易の拠点として大いに繁栄しました。

一一九五年(建久六年)、榮西が博多に日本初の禅寺である聖福寺を開山。喫茶の習慣を広め、饅頭や餡餃の製法を伝授。

博多と天神（福岡）、どちらが福岡の顔？

一五八七年（天正十五年）、豊臣秀吉によって「太閤町割」が行われ、博多は復興を遂げます。一六〇〇年（慶長五年）の関ヶ原の戦いの後、黒田官兵衛、黒田長政親子が筑前国に入国し、市内中心部の那珂川から東を博多、西を福岡と呼び、そのまま定着しました。

黒田官兵衛、黒田長政親子が筑前国に入国し、市内中心部の那珂川から東を博多、西を福岡と呼び、そのまま定着しました。



別名・舞鶴城と呼ばれる福岡城。築城の際、黒田家ゆかりの地である備前国福岡（現在の岡山県瀬戸内市長船町福岡）の名にちなんで「福岡」という地名になりました。

一八九〇年（明治二十三年）、福岡市会（当時の市議会）で市名を「博多市」と「福岡市」のいずれの名称にするか紛糾し、最終的に一票差で「福岡市」に決定したというエピソードは有名です。以降は、それぞれの歴史と土地柄の特色を活かしつつ、「博多」は商人の街からビジネス街へ、「福岡」は武士の街から繁華街商業地となり発展を遂げました。「博多」という地名は

博多ものがたり



▼1971年（昭和46年）、路面電車が走る天神。（写真提供／西日本鉄道株式会社）



▲1962年（昭和37年）、福岡ビル開業時の写真。天神ビッグバンでは、再開発の対象となっています。（写真提供／西日本鉄道株式会社）



▲複合施設建設中の九州大学六本松キャンパス跡地。



▲「天神ビッグバン」の第一弾として水上公園にオープンし、人気を博している「シップスガーデン」。

福岡市 変革の時を迎えている福岡市

福岡市は一九七二年（昭和四十六年）、政令指定都市となり、博多区、中央区、東区、西区、南区の五区制がスタート。十年後の一九八二年（昭和五十七年）には、西区が西区、早良区、城南区に三分割され、七区

制となり現在に至っています。人口は現在、百五十万人を突破し、十七世紀以降に登場し、歴史的に「博多」に軍配が上がりますが、いずれも個性の異なる「福岡の顔」ということができるでしょう。地区の「天神ビッグバン」をはじめ、ウォーターフロント地区（東区箱崎・中央区六本松）など大規模な再開発計画が進んでいます。順調に進めば、五十年後には大部分の計画が完了し、街の景観が大きく変わることになるでしょう。

人口が増加し、都市機能の強化が望まれている福岡市は今、天神地区（天神ビッグバン）をはじめ、ウオーターフロント地区（東区箱崎・中央区六本松）など大規模な再開発計画が進んでいます。順調に進めば、五十年後には大部分の計画が完了し、街の景観が大きく変わることになるでしょう。

人口が増加し、都市機能の強化が望まれている福岡市は今、天神地区（天神ビッグバン）をはじめ、ウオーターフロント地区（東区箱崎・中央区六本松）など大規模な再開発計画が進んでいます。順調に進めば、五十年後には大部分の計画が完了し、街の景観が大きく変わることになるでしょう。

博多を盛り上げた発想力豊かな商人 八尋利兵衛



清流公園に残る高さ約10メートルの「高灯籠」。1897年(明治30年)、八尋利兵衛が発起人となり、住吉土手(博多区)にレジャーランド「住吉向島」を完成させました。この「高灯籠」は、その開園を記念して建てられたものを戦後、移築したものです。

陽気でお祭り好き。典型的な博多っ子気質の八尋利兵衛は、

毎年十一月十五日から六日間行われる「せいもん払い」をはじめ、

様々なイベントを考案。持ち前の

発想力で博多の街を活気づかせ

ました。

良い企画は迷わず導入し
実現させる行動力

十二年(嘉永二年)、三十歳の時に現在の博多区下川端町に漬物商「金山堂」を創業。

八尋利兵衛は、一八四九年(嘉永二年)、筑紫郡で生まれました。十四歳の時から博多の呉服商で修業し、一八七九年(明治



アイデアを次々と実現させていった博多商人・八尋利兵衛。
(写真提供/西日本新聞社)

創業して間もない頃、利兵衛が商用で大阪の埠に出向いた時、蛭子市の誓文払いが大繁盛しているのを目

の当たりにして、「博多でもこの賑わいが実現できなかいか」と考えます。

利兵衛は博多の呉服商に呼びかけましたが、当時の大売り出しといえれば、店が倒産した時行うもの。多く

の反対に遭いましたが、それでも足

を棒にして交渉にあたり、何とか

二十七店の協賛を得て、一八七九年(明治十二年)暮れに初めての

「誓文晴れ」(当時の名称)を実現させます。

東京・向島遊園地の賑わいを見た利兵衛は、那珂川を隅田川に見立て、当時は荒れ果てていた住吉土手(博多区)にレジャーランドを建設することを提案。二年間にわたって資金作りに奔走し、一八九三年(明治二十六年)に着工し、一八九七年(明治三十年)に完成させました。「住吉向島」として賑わったそうですが、現在キャナルシティ博多近くの那珂川沿いに広がる「清流公園」に立つ「高灯籠」は、開園を記念して建てられたものを戦後、移築したものです。

一九〇〇二年(明治三十五年)には、東京・浅草で見た名物タワー「凌雲閣」(十二階)にヒントを得て、博多区中洲に「高砂館」を出現させました。八階建の八階には舶來の望遠鏡が備え付けられ、多くの見物客が列をなしたそうです。

中洲に八階建ての 楼閣が出現

天神に広がった せいもん払い

利兵衛は、その後も様々なアイデアを実行に移していきます。

「せいもん払い」は、戦時中一時中断したものの、戦後間もなく福

1902年(明治35年)に中洲に博多の有志により建設された「高砂館」。八角形の木造8階建、高さ30メートル。敷地が福岡県の所有地だったため、半年後には解体されました。(写真提供/「想い出のアルバム・博多、あの頃」(華書房)より転載)



清流公園、順正寺、上川端商店街

▶「上川端商店街」のせいもん払い、2代目アーケード完成後、1981年(昭和56年)頃。(写真提供 上川端商店街振興組合)



岡商工会議所が「大せいもん」の呼び名で統一して復活。しかし、「せいもん払い」の名称に戻した方が良いのではという機運が高まり、再び「せいもん払い」が使われるようになりました。

現在は、「上川端商店街振興組合」「新天町商店街商業協同組合」など、福岡市内の二十七団体が共同で行う催事として二〇〇五年(平成十七年)より「福博せいもん払い」という名称に統一されました。(統一ポスターは、約三十年前より故西島伊三雄氏によるイラストが使用されています。)



順正寺に眠る八尋利兵衛。「せいもん払い」の時期になると、上川端商店街の商店主がこの墓を指でるそうです。

西島伊三雄さんと共に 創刊60号発刊へ

明月堂物語「其の四十三」

本誌「博多ものがたり」の創刊号より、表紙のイラストを飾っていたたいたい西島伊三雄さんが亡くなつて今年で十五年。本誌もちょうど六十号を迎えることを記念して、今回の「明月堂物語」は、西島さんのお人柄を偲ばせる逸話をご紹介します。

童画を描くよくなつたきっかけとは

西島さんといえば、人を包み込むような優しい笑顔が浮かんできますが、アトリエで絵と向き合う時の西島さんの表情は全く違つていました。妥協を許さないまさに仕事の鬼だったのです。

西島さんは、グラフィックデザイナーであり、どこか懐かしくやさしい雰囲気の童画も数多く手がけました。戦争で赴任していたビルマ（現在のミャンマー）から日本へ帰る船の中での出来事が童画を描くきっかけとなつたといわれています。多くの人が乗り込んでいた船室の中で、ある人が



創刊号から表紙を飾った童画の数々。



テレビ天気予報に出演中の西島伊三雄さん。
(写真提供/株式会社アトリエ童画)



博多ものがたり



若かりし頃の西島伊三雄さん。仕事に向き合う時の厳しい雰囲気が伝わってきます。
(写真提供/株式会社アトリエ童画)

最後に、西島さんが亡くなる数年前、秋丸卓也名誉顧問が社長を務めていた頃の逸話を紹介しましょう。秋丸卓也社長(当時は、西島さん)にどんたくの絵を依頼。出来上がってきた絵の出来栄えに感動した秋丸社長は、統いて山笠の絵を依頼します。しかし、その絵は完成されるとなく、二〇〇一年(平成十三年)、九月三十日、お亡くなりになりました。享年七十八歳でした。

西島さんは、小さなことにはこだわらない豪快な印象が残っていますが、一方で非常に神経の細やかな人でした。例えば、会合でテーブルを囲む席順について、その場の雰囲気を大切にし、集った人が気持ちよく過ごすことができるよう配慮を怠らなかつたそうです。

豪放磊落でありながら神経は細やか

ハーモニカを吹き始めました。そのやさしい音色が、今まで忘れていた故郷の情景やそこで遊ぶ無邪気な子供たちを思い起させたのです。その時、西島さんは、平和な世の中の重要性と、子供の純粋無垢な姿を作品の中で表現していきたいと強く思うようになりました。

「博多通りもん」の名前の由来

博多っ子の陽気な祭り

「博多どんたく」

毎年、五月三日・四日に行われる博

多どんたく。初夏の博多を彩る祭り

として、博多っ子に限らず日本中の

人々に愛されています。

祭りのパレードでは、さまざまなグループが賑やかに演舞を披露します。その先陣を切るのが博多松囃子

くまばし

の一行で、これが博多どんたくの起源

だとされています。

松囃子とは、室町時代の京都の年賀行事。人々が得意の芸能を演じな

くまばし

がなまつた言葉。

以来、博多どんたくは「西洋休日」と

がら街を練り歩いたものです。博多

での松囃子は治承三(一一七九年に

始まつたと、貝原益軒が筑前国統風

土記に記しています。

博多松囃子はその後、さまざまな変遷を経て、洒落た氣の多い博多町人が無礼講のあいさつ回りとして発展させました。そして明治時代、一時禁止されていた博多松囃子を復活させる際に用いたのが「どんたく」という名称です。これは、明治時代の流行語であるオランダ語の休日「ゾンタ

ク【Z o n d a g】」がなまつた言葉。

以来、博多どんたくは「西洋休日」と

玉屋がかわいい
品川女郎衆は十匁
スッポンボン

十匁の鉄砲玉

一ぱんち
ねんねしな
かわいいや

品川女郎衆は十匁

しても親しまれきました。

昭和二十二(一九四六年)には、焼け野原の博多を「復興しようやー」の掛け声のもと、あり合わせの衣裳や楽器で瓦礫の道を行脚。このときの三味線や太鼓の響きが、復興への勇気を与えました。博多っ子にとつて復興の証でもあるどんたくは、平成十七(二〇〇五年)年の福岡西方沖地震の際にも、人々の心に希望の光を灯しました。



どんなくから名づけられた
「博多通りもん」

しゃもじや三味線、笛や太鼓をうち鳴らし、面白樂しく、お囃子を唄つたり、踊つたり。どんなく衣裳に身を包んで、街を練り歩く人々の姿は、古くから「通りもん」と呼ばれ、今でもどんなくの名物として、祭りをおおいに盛り上げています。

ミルクの香りのするハイカラな衣裳で身を包み、餡がしつとり練りあげられた、明月堂のおまんじゅうは、まさに「博多通りもん」の名にぴったり。明月堂の西洋和菓子もまた、福岡・博多の名物として、多くの人に親しまれています。

モンドセレクション
16年連続金賞受賞
2007~16年最高位
特別金賞を受賞

西 洋 休 日
博 多 も ん
SEIYO KYUITSU HAKATA TORIMON

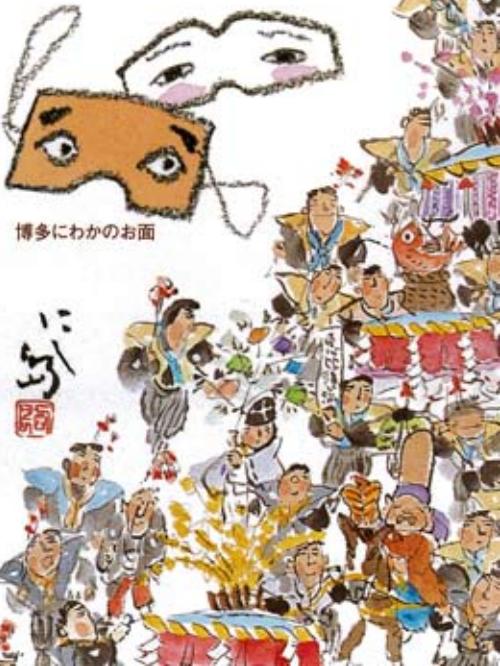


博多に夏を告げる博多祇園山笠は、博多どんなくとともに福岡を代表する祭りです。その起源は鎌倉時代、聖二国師という僧侶が博多の地に流行っていた疫病を鎮めるため、施餓鬼棚に乗つて町にくりだし、甘露水(祈祷水)をまいたことだと伝えられています。

この聖二国師こそ、博多に饅頭を伝えた人物。明月堂のお菓子は、こういった博多の歴史や伝統、博多つ子の心意気に彩られています。



山笠は昇き山の他、美しい人形を高く飾り付けた「飾り山」もある。



博多にわかのお面

明月堂のお菓子には、博多の心がこもつとーね。

明月堂のお菓子には博多弁や博多の風物が

名前として使われていると聞いて、最初はびっくりしました。

そして、僕の中の博多っ子の血が嬉しく騒いだことを覚えています。

そんなわけで、明月堂のお菓子には愛着がありますね。

これからも、博多ならではの文化を伝える

お菓子をどしどし作ってもらつて、

多くの人に博多のことを知つてもらえたらうれしい



Hasegawa Masayoshi
長谷川法世

漫画家 はせがわほうせい

博多町家ふるさと館 館長
1945年福岡市博多区生まれ。
代表作は76年から8年間連載した

「博多っ子純情」。
NHK朝の連続テレビ小説
「走らんか」では原案を担当した。



モンドセレクション 16年連続金賞受賞 '07~'16年最高位 特別金賞を受賞

第40回(2001年)ポルトガル、第41回(2002年)フランス、第42回(2003年)ベルギー・ブリュッセル、
第43回(2004年)オランダ・アムステルダム、第44回(2005年)ベルギー・ブリュッセル、
第45回(2006年)チェコ・布拉ハ、第46回(2007年)スペイン・バルセロナ、
第47回(2008年)オーストリア・ウィーン、第48回(2009年)イタリア・ベニス、
第49回(2010年)ドイツ・フランクフルト、第50回(2011年)ベルギー・ブリュッセル、
第51回(2012年)ギリシャ・アテネ、第52回(2013年)スウェーデン・ストックホルム、
第53回(2014年)フランス・ボルドー、
第54回(2015年)ポルトガル・リスボンに続き、
第55回(2016年)ハンガリー・ブダペストでも連続受賞。



第24回全国菓子大博覧会公募競争の最優秀賞

名誉総裁賞受賞

第24回全国菓子大博覧会公募競争の特別賞

茶道家元賞受賞(表千家)

第25回全国菓子大博覧会

名誉総裁賞(技術部門)・橘花栄光章受章

第26回全国菓子大博覧会

茶道家元賞受賞(表千家)・橘花栄光章受章

傑作まんじゅう
博多通りもん

博多に伝わる和菓子の伝統に、
生クリームやバターを始めとする
西洋菓子の素材を取り入れた
博多通りもんは、
まさに博多つ子が愛する遊び心や
洒落つ気を、その製法にこめた
博多ならではのお菓子です。
博多を中心福岡近郊で
販売しております。



商品番号 1814
博多通りもん
12個入 1,480円(税込)



商品番号 1813
博多通りもん
8個入 980円(税込)



商品番号 1812
博多通りもん
6個入 730円(税込)



商品番号 1817
博多通りもん
32個入
3,920円(税込)



商品番号 1816
博多通りもん
24個入 2,960円(税込)



商品番号 1815
博多通りもん
16個入 1,960円(税込)

*箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。※卵・乳・小麦を含む

【博多通りもん】
五月三・四日に行われる博多どんたく。市民の祭りに、どんな衣装を身にまとった味噌、笛太鼓お囃子をする人達を「通りもん」といいます。



最高位 特別金賞を受賞
'07-'16年

世界が選んだ博多の名菓
博多通りもん

お菓子の品質向上を目的に欧州共同体とベルギー・経済省が1961年から行っている世界食品コンテストです。博多通りもんは、2001年のボルトガルでの金賞受賞以来、今回のハンガリー・ブダペストで16年連続受賞、まさに最高位となる「特別金賞」を10年連続受賞いたしました。

素焼つばから

取り出した頃の昔懐かしい味

博多つば焼風

芋つば

芋本来の美味しさ、香ばしさ、
ほくほく感を大切に、素材も契約栽培されている
えうま芋にこだわりました。

芋の皮まで使い、

その美味しさを「芋つば」に凝縮しました。
博多の秋・冬の風物詩を
いつでも味わっていただけます。



商品番号 1643

8個入 980円(税込)



商品番号 1623

20個入 2,360円(税込)



商品番号 1644

12個入 1,480円(税込)



【芋つば】
博多の駄菓子屋さんはその昔、素焼の
壺の中に針金で吊した芋を入れて焼いた、
ほつくりとおいしい焼芋(芋つば)を売って
いました。

※卵・乳を含む ※箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

玉露の風味を
まるごと練りこんだ濃厚な味わい

博多玉露まんじゅう

ほのかに甘く、渋みが少ない福岡特産の八女茶。
「博多玉露まんじゅう」は、
そんな八女茶玉露の繊維をそのまま生かし、
皮にも餡にもたっぷり練りこみました。
生クリームもふんだんに使用しておりますので、
玉露風味のまろやかな味わいを楽しめます。



商品番号 2312

9個入 1,620円(税込)



商品番号 2311

6個入 1,080円(税込)



商品番号 2314

18個入 3,240円(税込)



商品番号 2313

12個入 2,160円(税込)



【博多玉露まんじゅう】
濃厚で特有の甘みがあり、渋みが少ない福岡特産の「八女茶」。
その八女茶発祥の地である奥八女の黒木町において丹精込めて育てられた「玉露」の生葉をペースト状にし、たらぶりと餡の中に練り込みました。



*卵・乳・小麦を含む *箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。



写真は抹茶入り240円(税込)です。
※季節により詰め合わせの内容が変わる場合があります。
※包装形態が変わることがございます。

箱を開けると、

博多の歴史、文化、情緒が広がります。

博多西洋和菓子ぞろえ
えい しょう ぞろえ

詠笑恵

箱を開けるとそこから、

昔懐かしい博多の方言や
人情味あふれる伝統、文化の
物語があふれ出してきます。

明月堂よりすぐりの

人気の博多西洋和菓子が、

四季折々の表情を見せ、

皆様を愉しませることでしょう。



※箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。



商品番号 1433

博多西洋和菓子詰め合わせ 詠笑恵
2,160円(税込)



商品番号 1432

博多西洋和菓子詰め合わせ 詠笑恵
1,620円(税込)



商品番号 1435

博多西洋和菓子詰め合わせ 詠笑恵
5,400円(税込)



商品番号 1434

博多西洋和菓子詰め合わせ 詠笑恵
3,240円(税込)

※卵・乳・小麦を含む ※季節により詰め合わせの内容が変わることがございます。※包装形態が変わることがございます。

博多の歴史を
お菓子に託したおまんじゅう

博多じまん

良質の小豆だけを使って
てぼう豆を加えて練りあげた餡は、
自然な甘さとやさしい風味を
醸し出します。

博多の町に引き継がれる粋な心を、
ぜひご賞味ください。



商品番号 1943
博多じまん
8個入 980円(税込)



商品番号 1916
博多じまん
6個入 730円(税込)



商品番号 1945
博多じまん
16個入 1,960円(税込)



商品番号 1944
博多じまん
12個入 1,480円(税込)

つぶ餡

博多の歴史を
お菓子に託したおまんじゅう

良質の小豆だけを使って
てぼう豆を加えて練りあげた餡は、
自然な甘さとやさしい風味を
醸し出します。

博多の町に引き継がれる粋な心を、
ぜひご賞味ください。

※箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

伝統の「博多じまん」といえば博
多人形・博多織。七百七十年の
伝統の歴史を織りこんだ博多織
は、今もその美しさは変わらず、
白い生糸からつくり出される。博
多織は、さまざまな人から愛さ
れた逸品です。

【博多じまん】

第24回全国菓子大博覧会お菓子の最高位賞
名誉総裁賞受賞



めんたいを入れて焼き上げた博多のパイ

博多つ子

博多の名物辛子めんたいを

パイに入れてパリッと焼きました。

伝統のタレと薫味を加えたピリッとする辛さで
めんたいの豊かな風味をお楽しみください。



商品番号 1244
博多つ子
12個入 1,480円(税込)



商品番号 1243
博多つ子
8個入 980円(税込)



商品番号 1212
博多つ子
6個入 730円(税込)

*箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

【博多つ子】
ピリッと辣で、遊び心と洒落つけ
たつぶりの博多つ子。その博多つ
子の気質がそのままお菓子にな
りました。



*「最詰めになつております。



商品番号 1245
博多つ子
16個入 1,960円(税込)

「やぶれ饅頭」は、昔より博多の庶民の味として

こよなく愛されてきました。

その製法に習い、

粒たっぷりの「うぐいす餡」を、

山芋（サツキ）をふんだんに使った

「薯蕷（サツヨウ）」生地で包んだ

お饅頭です。



卵白（マレンゲ）と
アーモンドブードルで作った白谷けの良、生地に、
珈琲（コーヒー）クリームをサントした、
ちよつと大人の香りのするお菓子です。



商品番号 0521

7個入 1,380円(税込)

商品番号 0522

14個入 2,760円(税込)

*気候により販売を控えることがございます。

ひと昔前の博多を偲ばせる
懐かしくてモダンな味わい

博多モダンカフエ



【博多モダンカフエ】

ひと昔前の博多。街には赤レンガ作りの洋館やハイカラな喫茶店が立ち並び、人は洋風なスタイルに身を包んで歩いていた時代。そんなレトロでモダンな当時の面影を残す博多の街の風情を、お菓子に仕立てました。

*卵・乳・小麦を含む *箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

商品番号 0421

6個入 730円(税込)

商品番号 0443

8個入 980円(税込)

商品番号 0432

15個入 1,770円(税込)

商品番号 0433

20個入 2,360円(税込)



【博多蔵あん】

野山に住む鶯のことを「藏鶯（やぶうぐいす）」といいます。

また、昔は奉公人のお休みを

「藏」といいて楽しみにしていましたことから、庶民の楽しみを、その味にこめたということも由来しています。



*小麦を含む *箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

うぐいす餡たっぷりの純和風蒸し饅頭

博多蔵あん

よもぎの香りと粒あんの甘さが
博多の野辺の思い出を伝えます

畔摘みもち



商品番号 1106
6個入 730円(税込)

商品番号 1143
8個入 980円(税込)

商品番号 1144
12個入 1,480円(税込)

※卵・乳・小麦等は使用しておりません

国産のよもぎを
たっぷりと使った餅の中に
こだわりのあずき餡を入れて
作ったのが「畔摘みもち」です。
昔は畔で摘んだよもぎで作った「草
餅」をお楽しみにしていました。



【畔摘みもち】

春の博多、那珂川の川辺や田園の
畔道には、若草色に芽吹いたよも
ぎが至る所に芽を出していました。昔
は畔で摘んだよもぎで作った「草
餅」をお楽しみにしていました。

日本一、甘いぜんざいと謳われる 川端ぜんざい

商品番号 2801
1袋 500円(税込)

商品番号 2811
3袋入 1,620円(税込)

商品番号 2812
5袋入 2,592円(税込)

商品番号 2813
8袋入 4,104円(税込)

※レトルトパック入り。
※餅は個装パック入り。

【川端ぜんざい】

博多名物「川端ぜんざい」は戦前
戦後を通して、全国に名が知れるほ
ど親しまれています。



※卵・乳・小麦等は使用しておりません

どら焼の皮で包んだカステラけーき

西中洲

貴賓館ろまんす

かすていらをひとつひとつ

「二文字焼」でくるみました。

手間をかけた上品な
カステラけーきです。



※箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

【西中洲貴賓館ろまんす】



博多の中洲から福博で那
珂川を渡ると見える建物です。昔の
教育庁の跡で、明治大正ロマンを
ばせます。

※卵・乳・小麦を含む



商品番号 0213
20個入 2,600円(税込)



商品番号 0211
10個入 1,300円(税込)



商品番号 0212
15個入 1,950円(税込)

この「明月堂かすていら」は素材のふくよかな風味を活かして焼き上げております。
「懐かしき旨み」を、堪能くださいませ。



発酵バターを使い、
より芳醇な香りと味に焼き上げました。
懐かしい風味の中に、新しいセンスを含んだ
きめ細やかな味わいを存分にご堪能ください。



それは遠い昔、憧れの味。
ひと切れの母の優しさ。

明月堂かすていら



商品番号 0105
0.5号 5切×1パック
750円(税込)



商品番号 0106
1号 5切×2パック
1,500円(税込)

商品番号 0111
2号 5切×4パック

3,200円(税込)

【明月堂かすていら】
卵たっぷりのかすていらは、
ほのぼのとした懐かしい
味わい。しつとりとまる
やかな風味が、お口の中
に広がります。

伝統の技に現代の感性を折り込んだ

南蛮、バター、カステラ
蘭

商品番号 1011
9個入 1,400円(税込)

商品番号 1012
12個入 2,100円(税込)

商品番号 1013
18個入 2,800円(税込)

【南蛮バター、カステラ 蘭】



*箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

「蘭」というのは「阿蘭陀(オランダ)」の略語です。(博多
どんたく)がオランダ語の「オ
ンターラ(休日)」由来する
ように博多とオランダとの縁
にちなんで名付けました。

蜂蜜と鶏卵をたっぷり使った高級生地と
小豆餡で美味しいにこだわりました。

上川端通り5-104

- 商品番号 0611
8個入 1,670円(税込)
商品番号 0612
12個入 2,550円(税込)
商品番号 0613
16個入 3,340円(税込)



石臼で挽いた小麦粉、砂糖、蜂蜜などを使い、
独自のカステラの技術で焼き上げました。



商品番号 0321
18個入 1,458円(税込)

商品番号 0322
27個入 2,160円(税込)

商品番号 0323
36個入 2,916円(税込)

石臼挽き丸ぼうろ
筥崎ぼつぼ

【筥崎ぼつぼ】

博多の伝統工芸品「博多曲物」
は、筥崎宮の調達品としても
用いられ、松竹梅と鶴龜を描
いた脚つきの四角い祝い膳は
「ぼつぼ膳」といわれています。
さらに、そこに筥崎宮の楊を
イメージして「筥崎ぼつぼ」と
名づけました。



*卵・乳・小麦を含む *箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。

【上川端通り5-104】
明月堂の創業の地「川端店」が
上川端通りにあり、住所が「上
川端町5-104」。
そこで当店自慢のどら焼に看
板商品として、この名前を付け
ました。

*卵・小麦を含む *箱詰めの個数、金額等が変更になる場合があります。



明月堂 Web 博多ものがたり

明月堂のホームページにどうぞ。

※インターネットでのご注文はクレジット決済ができます。

<http://www.meigetsudo.co.jp>

E-mail info@meigetsudo.co.jp

携帯サイト <http://www.meigetsudo.net/m/>

明月堂サイト
トップ画面→

楽天市場
↓トップ画面



○宅配便のご案内 (税込)

北海道	1,080円	北陸	820円	中國	550円
東北	1,040円	中部	770円	九州	440円
関東	930円	関西	660円	沖縄	1,080円
信越	880円	四国	660円		

デパート

- 天神岩田屋店 (092) 721-1111(代)
- 博多大丸店 (092) 712-8181(代)
- 福岡三越店 (092) 724-3111(代)
- 博多阪急店 (092) 461-1381(代)

直営店

- 本社売店 (092) 411-7777
- 川端店 (092) 281-1058
- 博多駅マイング1号店 (092) 441-6445
- 博多駅マイング2号店 (092) 477-1158
- 博多ディスト1号店 (092) 441-0386
- 博多ディスト2号店 (092) 474-2559
- イオンスタイル笹丘店 (092) 761-2152
- イオン原店 (092) 833-4414
- イオン福重店 (092) 884-0868
- サンリブ木の葉モール橋本店 (092) 811-5778

○お申込み方法

●ご注文専用

フリーコール

■電話による受付
(受付時間 午前9時～午後5時)

TEL 0120-158-127

または 092-411-7777 (有料)

■ファックスによる受付
(24時間)

FAX 0120-105-867

お客様の郵便番号、住所、氏名、
電話及びFAX番号を記入の上、
当社にFAXしてください。

●お支払いは入金後発送又は代金引換

【入金後発送】

■銀行振込

西日本シティ銀行 福岡支店(当座) 8843
(株) 明月堂 宛

*振込手数料は、お客様のご負担となります。
ゆうちょ銀行は一九七店(当座) 0079770

■郵便振替

01780-0-79770 (株) 明月堂 宛
振替手数料は、お客様のご負担となります。

■コンビニ支払

セブン銀行専用の振込用紙をお送り致します。

■代金引換

配達時に商品とお引き換えに、代金をお支払い頂く早くて便利なシステムです。

商品のご発送

博多通りもんは下記売店でも販売しております。

空港(国内・国際)売店

- 岩田屋エアポートショップ店
- 博多大丸エアポートショップ店
- 福岡玉屋エアポートショップ店
- ANA FESTA 福岡空港売店
- JALUX福岡空港売店
- 福岡空港商事売店
- ベイシス福岡 菊ひら売店
- 福岡空港国際線売店
- 福岡空港免税ショップ

その他の売店

- キヨスク(博多駅構内売店)
- 博多バスター・ミナル売店
- 高速道路売店(基山・広川・金立・古賀・山田SA)
- 天神バスセンター売店
- ふくや売店(一部)
- キャナルシティ売店
- 福岡パルコ売店

*店舗により、取扱い商品が異なります。

博多情緒たっぷりの
博多西洋和菓子をどうぞ。

◆博多西洋和菓子◆

MEIGETSUDO

株式会社 明月堂

〒812-0892 福岡市博多区東那珂2丁目11番23号

TEL092-411-7777 FAX092-411-7878

明月堂ホームページ <http://www.meigetsudo.co.jp>

Email: info@meigetsudo.co.jp

博多通りもん

検索

2016.12.2-2017.2 <第60号>
冬の博多ものがたりです